

式 辞

春の花々が美しく咲き、日ごとに暖かさを感じる今日の佳き日に、教育振興会会長 吉田 幸廣 様をはじめ、新入生保護者の皆様方のご臨席を賜り、令和四年度佐賀県立厳木高等学校入学式を挙行できますことに、厚く感謝申し上げます。

ただいま、七十八名の新入生に入学を許可いたしました。新入生の皆さん、入学おめでとう。本校教職員を代表し、皆さんの入学を心から歓迎します。

本校は、昭和二十六年、唐津高等学校厳木分校としてスタートし、昨年度、創立七十周年記念式典を開催した、歴史と伝統ある学校です。

四年前、本校は、発達障害の特性を持ちながら、あるいは不登校や中途退学を経験しながらも学び直したいという強い意志を持つ生徒のための全県募集枠も設置する学校として生まれ変わりました。

本校の学校教育目標は、『生徒一人ひとりの個性や特性に応じたカリキュラムや体験活動を通して地域や社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。』です。

豊かな自然に恵まれたこの厳木の郷で、生徒一人ひとりの個性や可能性を最大限に引き出すため、充実したキャリア教育や様々な体験活動をとおして、郷土を愛し地域や社会に貢献しようとする意欲を持った人材を地域とともに育成しています。

さらに、西部学区枠、全県募集枠の垣根を越えて豊かな学校生活を送り、互いの個性を理解し尊重し合う経験を通して、他人を思いやる優しい心と豊かな人間性が育まれています。

本校は、教育の柱に、「基礎学力の定着」「部活動の活性化」「あいさつ運動の促進」「ボランティア活動の充実」の4つを掲げ、新厳木高校としての特色や魅力の向上に取り組んでいます。

さて、いよいよ今日から高校生活をスタートする皆さんに三つのことをお願いします。

一つ目は、毎日の授業の中で、友人たちとともに学び合い、ともに高め合う「学びの雰囲気づくり」に努めて欲しいという事です。集団生活に少し不安を感じている人もいるかもしれませんが、少しずつ慣れていって下さい。また、本校では、入学以前の学習が十分でなかった人のために、学び直しの機会も多く提供しています。家庭での「学びの習慣化」にも取り組むことで、十分な基礎学力を身につけて下さい。

二つ目は、生徒全員が快適な学校生活を送ることができるように、決まりや約束を守って欲しいということです。学校に限らず社会においても、必ず守らなければならない決まりや約束が存在します。決まりと約束を尊重する高校生活をとおして、社会で通用する規範意識を身に付けて下さい。本校では生活態度についても適切に指導しています。十分に理解しておいて下さい。

三つ目は、是非部活動に入部して心や身体を鍛えて欲しいということです。部活動をとおして、社会で必要な礼儀、忍耐力、人間関係力などが身につきます。部活動以外にも生徒会活動やボランティア活動などに励むことで、進学や就職の

可能性が大きく広がります。

本校の卒業生である、プロ野球横浜DeNAベースターズで活躍している宮崎敏郎選手を始め、多くの先輩たちが本校で部活動に打ち込むことで、その後の人生を切り開いてきました。

昨年度も、アーチェリー部、インドアスポーツ部、野球部、美術部、書道部など、多くの部活動生徒が日頃の活動成果を発揮し、各種大会で活躍してくれました。全員が部活動に入部して、自分のため、そして、将来の人生のためにも部活動や校外活動等に挑戦してくれることを期待しています。

さて、入学式に際し、新入生の皆さんに私の好きな童謡詩人 金子みすゞさんの「星とたんぽぽ」という詩を紹介します。

青いお空の底深く、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼（め）に見えぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

散ってすがれたたんぽぽの、
瓦（かわら）のすきに、だままって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は目に見えぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

たとえば、今、私たちの目には見えなくても、そこにある。私たちの目には見えなくても、大切なものがある。ということに気づかせてくれる詩です。これからの高校生活をとおして、じぶんには見えてはいない自分の良さを、そしてお互いの良さを見つける、心の眼を育てながら充実した学校生活を送って下さい。

最後になりましたが、保護者の皆様にはお子様の御入学、心からお祝い申し上げます。本日、皆様の大切なお子様をお預かりいたしました。教職員一同、責任をもって教育を行って参ります。本校の教育方針に対しご理解とご協力をお願いいたしますとともに、これからの三年間、学校と家庭の緊密な連携をお願い申し上げます。

以上をもちまして、新入生の皆さん一人ひとりの高校生活が充実したものであることを祈念して、令和四年度入学式の式辞といたします。

令和四年四月八日

佐賀県立巖木高等学校
校長 坂本 康晴